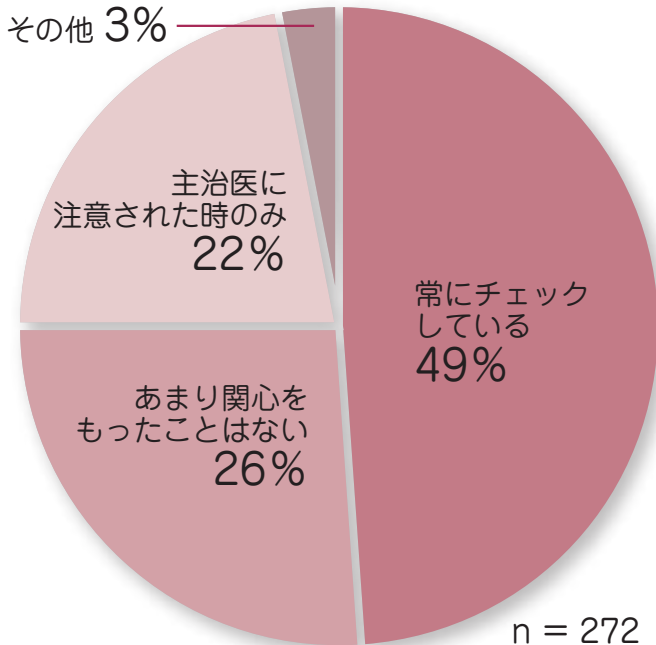


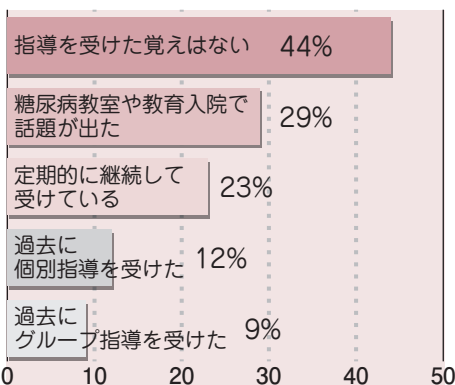
糖尿病患者さんに聞きました

# Q. 腎臓の状態をみる検査のご自身の値を、きちんと把握していますか？

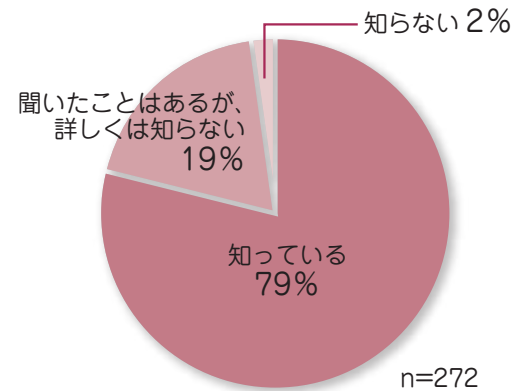


約半数が「常にチェックしている」としましたが、4人に1人は「あまり関心をもったことはない」とのことでした。腎臓の状態をみる検査で知っている項目として「尿蛋白」は8割、「尿中微量アルブミン」は6割、「血清クレアチニン」は5割という認知度で、実際に定期的を受けている関連項目では、「尿蛋白」76%、「血压」75%、「視力」56%、「血清クレアチニン」48%、「尿中微量アルブミン」43%との状況。回答者の中で、腎症と診断されたことがある方は1割程度でした。次に、糖尿病性腎症の予防・進行抑制を

## Q. 「糖尿病性腎症」予防・進行抑制のための指導を受けたことはありますか？ (n=272 複数回答可)



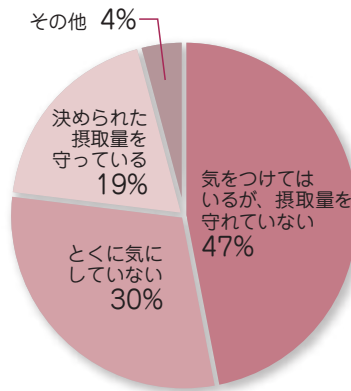
## Q. 糖尿病性腎症をご存知ですか？



目的とする指導を受けたことがあるかを伺ったところ、定期的に継続して受けている方は2割程度で、「受けた覚えはない」方が44%と最も多く、腎症に特化した指導をきちんと受けておられる方はかなり少数であることがわかりました。

なお、糖尿病患者さんは高血圧を合併されている人が多いと言われますが、降圧薬を服用している方は約4割でした。血压管理への意識として、日頃の食生活での塩分摂取について聞いてみると、適正量の範囲内を遵守している方は2割で、残りの8割は「守っていない」、「気にしていない」とし、意識の低さが目立ちました。

## Q. 日常の食生活の中で、塩分摂取量に気をつけてますか？ (n=272)



自由記述では、「絶対なりたくないので、合併症には気をつけている」「人工透析導入原因の1位であるということは、患者も医療者も対策が足りないのではないが」「医師が不要と判断しているのかもしれないが、知らないうちに進行していたらと思うと怖い」「腎症になった方の経験談など、合併症に関する情報をもっと欲しい」「腎症になってから指導するのではなく、予防的な指導も必要ではないが」等、多くの声が寄せられました。

### ●コメンテーター●

**鈴木吉彦** (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

糖尿病網膜症、神経障害は劇的に改善を見る機会が増えました。こうまで進歩すると三大合併症で残されるのは腎症です。血糖コントロールだけでは予防できず、多種多様な処方術と、個別化した栄養指導が必要とされます。特にメトホルミンや多くのインクレチン製剤処方には腎機能に注意を払う必要があり、e-GFRに着目する機会が増えました。望ましい傾向ですが、ただ、診療報酬があるからといって飛びつくだけでは、仕事が大幅に増えただけ、と感じてしまうスタッフも増えるでしょう。プロの指導技術をいかにシェアするか、その方法論が必要とされます。